佳作

野球の仲間と最後の夏

茨城県 常総市立岡田小学校四年　石塚　陽菜

わたしは野球を習っている。わたしのチームは人数が少なく、試合をする時は人数が足りないので、他のチームAと合同で出場している。来年から別のチームBとの合ぺいが決まったので、チームAと試合をするのは今年が最後の夏だ。

週末だけ会う仲間。はじめは人見知りで声をかけることもはずかしかったけど、いっしょに練習をしているうちにだんだん仲良くなっていった。

試合の日、あまりのきんちょうと暑さで私は体調をくずしてしまい、仲間のプレーを見ることが出来なかった。でも勝ったと聞いて本当にうれしかった。ただ、試合に出られない自分がくやしかった。何でいつもきんちょうしてしまうんだろう。どうして気持ちわるくなるんだろう。わたしはみんなと野球をしたいだけなのに。休んでいる間ずっと考えていたけど、答えは分からなかった。

最後の試合の日、どうしてもこの仲間と勝ちたいと思った。よし！体調はバッチリだ。車で向かっているとちゅう少しきんちょうもしていたけれど、球場に着くと仲間が笑顔で寄ってきてくれてホッとした。アップの時点で暑さでたおれそうだったけど、周りのみんながんばっているから私もがんばろうと思えた。

この日は最初レフトの守びについた。でもと中交代して公式戦ではじめてピッチャーも任された。ヒットをたくさん打たれたけど、かんとくやコーチはほめてくれた。打たれることはストライクがはいっているしょうこだからいいんだよ、と。ピッチャーフライも取れてわたしはまんぞくだった。二試合やったが結果はどちらも負け。でも仲間がヒットやホームランを打ってくれたり、大きな声で試合をもり上げてくれたことがうれしかった。ベンチから声えんを送ってくれたりもして本当に感動した。野球はチームプレイなんだよと、お父さんがいつも言っている意味が分かった気がした。

この仲間と楽しく野球が出来て良かったと心から思った。来年からはライバルになるけれど、お互い成長した姿を見られるといいなと思う。